

令和 6 年度第 2 回小松島高等学校学校運営協議会 会議録

- 1 日 時：令和 6 年 11 月 24 日（日）13 時 30 分から
- 2 場 所：小松島高等学校大会議室
- 3 日 程：13:30～14:20 公開授業参観（各教室等）

1 年：2 年生による生徒授業

2 年：各 HR での探究発表

3 年：各教科の授業

14:40～15:40 協議

4 協議次第

- （1）開会
- （2）学校長あいさつ
- （3）協議
 - ① 参観授業
 - ② 本年度の現状と改善点等について
 - ③ 各委員からの提言・意見交換等
- （4）その他
- （5）閉会

安崎教頭: 令和 6 年度第 2 回のこの高校の学校運営協議会を開始します。本日は、会議の記録用に写真撮影および録音を行います。

（２）学校長あいさつ

校長は、忙しい中ご参加いただきありがとうございます。本日はオープンスクールに合わせ、生徒の授業の様子を見学いただきました。１年生の教室では、２年生による生徒授業の様子。２年生はテーマを設けた探究授業、３年生は通常授業と各年次とも異なる学びの場を公開しました。ご意見をいただき、学校運営に活かしていきたいと考えています。

（３）協議

①参観授業について

畠会長：とても楽しそうな授業で、楽しいから学びが生まれると思いました。ラーニングピラミッドの他の人に教えるということまで含まれたとてもいい授業だと感じました。

井村委員：自分たちのテーマを決めて、授業をしているところが素晴らしい。本日２クールするので、１回目の授業を軌道修正している様子が見られました。

西沢委員：生徒の物理の授業がとても面白く興味深い内容でした。スライドを見るために照明が暗かったために、生徒の様子が見えづらかったのが残念でした。

佐藤委員：物理の授業がとても面白かったです。教師役の生徒が生徒の誤答を受け止め、授業を円滑に進めている工夫が見られました。また生徒の反応を見ながら進めている様子も勉強になるくらいでした。下級生に教えるという活動が学びを深めることを拝見し、素晴らしい授業をしていると感じました。

沖委員：先輩が授業をしている様子を見て、来年自分たちもこのようなことをするんだなという見通しが立ち、いい見本を見せてくれているなと感じました。１年生も知識を得る場になり、２年生にとっては、どうしたら理解してもらえるのか考えることで深い学びにつながると考えられます。教えることが面白いなと感じて教員になる若者が増えればいいなと感じました。

板東校長：補足説明をさせていただきます。昨年度は小松島中学校、小松島南中学校、勝浦中学校に出向いて生徒授業をさせていただきました。今年度はいろんな人に見てもらいたいということから校内で行いました。テーマが増えたら、指導する教員の負担感が増えてしまうかもしれませんが、生徒たちがテーマを自分たちで決めたのは意義があったように思います。1年次の既習内容のことや相手のことであれば理解がしやすく、昨年度の自分たちを思い出しながら、授業を考えている様子が見られ、いい面もあったように思います。

安崎委員：教室の照明の話がありましたが、プロジェクターが交換時期になっており、随分見えにくくなっているため、カーテンを引いて、照明を暗くする必要性がありました。来週末に交換予定であるため、改善されると思います。生徒も端末の使い方は慣れてきました。

②本年度の現状と改善点等について

板東校長：本校のホームページから説明させていただきます。9月に前日祭を含む文化祭を実施しました。書道パフォーマンスやクラス企画など多くの来場者が楽しみました。地域連携の一環で、警察に来ていただいた。白バイにも来てもらい好評でした。自衛隊には防災の展示もしていただきました。今年度は600名来場でした。熱中対策のため10月に体育祭を実施しました。競技は団体種目が多く、生徒の主体的な参加が目立ちました。硬式野球部は秋季大会県大会で準優勝した。第5回 SB Student Ambassador 四国ブロック大会に参加し、SDGsについて理解を深める機会になりました。松原育樹ボランティア活動も多くの生徒が参加しています。徳島県に推薦いただき、第39回時事通信社教育奨励賞努力賞を受賞しました。保育所でもボランティア活動を行い、優しく子どもと接している様子が印象的です。みんなで考える地域のバリアフリー『SeDaTuNa 車いす街歩き調査』では、車椅子を調達して街を歩き、問題点や改

善策を考えたいというプロジェクトの代表を本校生徒がしています。高齢者向けのスマホ教室もソフトバンクと連携して実施しています。生徒が講師となり、多くの高齢者に喜ばれました。小松島市と連携して南小松島駅改修工事に関連し、クラウドファンディングも行っています。高校生が行う活性化行事の資金調達を目的として行っています。今年度生徒が地域に出向く活動が充実できたかなと思っています。引き続いて、教育奨励賞努力賞を受賞した取組について紹介させていただきます。

久保委員：まなびプロジェクト推進課チーフの久保です。本校の取組について紹介します。今年度は、生徒授業を校内で行い、学校運営協議会の委員の皆様や教員からフィードバックを得る機会があることが特徴でした。そのフィードバックを受けて、さらに成長に繋げてもらいたいと思っています。まなびイベントについて紹介をさせていただきます。生徒の自主的な学習をどのように増やしていくかを主に考えています。ネーミングを大切にしています。定期考査2週間前から学習を加速させるために、「全校一斉学習マラソン」という活動を行い、Studyplus というアプリに学習時間や内容を記録し、教員もそれを見てフィードバックをするという取組です。ICT 委員から活用について呼びかける通信も発行しています。学習時間が多い生徒には表彰もしています。これまでは成績という形でのフィードバックでしたが、頑張りに対してもフィードバックをするという取組は新しいのではないかと考えています。「学力 UP チャレンジ月間」ではテストのない月に基礎学力を向上させる取組をするために、学習支援アプリの学習動画を利用した学習を推奨しています。既習内容の復習や応用問題に取り組むことができるものです。教員から課題を配信することもできるため、授業の補完ができるようになっています。到達度テストで、不正解だった問題を再度復習できる連動課題を個別に配信することができるため、個別最適化された学びが提供できると考えています。7月・12月には手帳コンクールとして、「松高・未来のための手帳」の活用をお互いに共有し合う取組を行っています。素晴らしい活用をしている生徒には表彰を行ったり、手帳の内容を渡り廊下に展示して、生徒それぞれが刺激し合えるようにしています。教育成果はな

なかなか可視化することは難しいですが、生徒からの意見や教員の意見を集約してまとめて、成果や問題点を可視化していく取組もしていきたいと思っています。

佐藤委員：素晴らしい取組でした。先生方が働きすぎているかという心配をしました。プライベートの時間まで使いすぎないようにしてください。

沖委員：子どもが飛びつくような活動ができないかな、と日頃から考えているが「学習マラソン」「学力 UP チャレンジ月間」などネームングの工夫が見られます。生徒自身が自分の成果を可視化して実感を得ることや仲間の取り組みを見て刺激を得ることができると思います。松高の取組は活気があると思いました。

井村委員：一人一台端末をどのように活用していくのだろうと思っていたが、今回の話を聞いて、活用成果を知ることができ勉強になりました。今の時代にあった上手な使い方が成果につながっているなと感じました。

畠会長：教育の DX 化が進んでいる中で、戸惑いを持っている生徒もいるかもしれない。自身の心や体との会話は、自分と向き合ういい方法であると考えます。

答えのない時代に、自分の価値判断軸を作っていく必要があります。部分的にアナログに回帰する AX 化（畠会長造語）も必要だと感じている。可能であれば、スケーリングを言語化する力を育てられたらいいなと感じています。「なんとなく」というフェルトセンスを言語化したら、不安感が縮小するとも言われています。

③各委員からの提言

安崎教頭：今後の改善のためにご提言をいただけたらと思います。

佐藤委員：今回はないです。いつも生徒が学校の外を見られるようにしてくださいとお願いしていたが、今回は外へ出たたくさんの活動を聞かせていただきました。

井村委員：学校の雰囲気がいいと感じます。来るたびに良くなっていると感じます。体育祭や本日授業の様子を見させていただいても、生徒たちが挨拶をしてくれます。いい雰囲気を今後も継続して行ってほしいと考えています。

畠会長：クラウドファンディングというインターネット上の取組を聞かせていただいたが、生徒さんたちが募金箱を持って街頭に立つなど実際に人に訴えかけて、心が通じ合う経験を感じることも大切なのではないかと考えています。

井村委員：募金してくれた人に3月15日の南小松島駅での活性化イベントのチラシを渡すというのもいいですね。

西沢委員：掲示物で「人権かるた」を拝見しました。いろんな筆跡があったので、人権委員さんなのか、生徒が協力して作ったことがうかがえます。デジタルにはない、手作りの作品の魅力がありました。他にも掲示物の工夫が見られました。

安崎教頭：書道の授業でも協力してもらい、書道で書いた励ましの言葉を掲示する取組も行っています。

沖委員：学区制が廃止されるというような動きがある。小松島市には小松島高校といういい学校があるのだから、地元の高校に行きたいというような生徒が多くなるように魅力をもっとアピールしてもらえたらと思っています。生徒授業の機会に、高校生が中学校に来てくれることは貴重な機会です。高校進学について考えるようになる、中学校2年生次に生徒授業が受けられたらと思います。

板東校長：中学校での生徒授業においては、同一の授業を何クラスも展開するという点で、少し難しい点がありました。検討していきたいと思っています。

佐藤委員：近くのローソンで、レジの近くで小銭を落としてしまった人がお金を拾うのを手伝っていた中学生がいました。小松島高校のオープンスクールにくる中学生だと思う。いいエピソードでした。

井村委員：学区再編の話は、中学生に実際アンケートをとると、想像していたとは違うような結果が出ているようでした。これからの動向が気になるところです。

安崎教頭：本日いただいたご提言は今後の学校運営に活かしていきたいと考えています。

（４）その他

安崎教頭：次回第３回の学校運営協議会は３月中旬を予定しています。後日スケジュールのご相談をさせていただきます。